

経営者への活きた言葉

肚はらのできている人でできていない人 伊與田 覺(論語普及会学監)

1. 喜ぶ、怒る、哀しむ、楽しむ。こういう感情を持っているところに、人間の人間たる所以ゆえんがあります。陽明学の祖・王陽明は、「天下のこと万ばん変べんといえども、わがこれに応ずるゆえんは喜怒哀楽の四者を出でず」と言っています。生活の様々な場面で喜怒哀楽の感情が現れてないということは、生きた人間にはあり得ないことです。
2. 「中庸ちゅうよう」という古典に、「喜怒哀楽の未いまだ発せざる、之これを中ちゅうと謂い」という言葉があります。喜怒哀楽の感情が、外に現れずに内で統一されている状態を「中ちゅう」といいます。例えば、光の色について、私たちは普段ほとんど意識することがありませんが、プリズマを通せず鮮やかな七色に分解されます。光はそういうものを含んでいるけれども、平生へいぜいはそれが統一、調和されており、それぞれを個別に認識することはできません。喜怒哀楽も同様に普段は各々が単独で外に現れずに内にあり、これを「未発みはつの中」といいます。
3. 上手な噺家はなしかは巧たくみな話術で笑いの渦を巻き起こしたり、泣かせたり、観客を自由自在に操あやつります。それまでしかめっ面をしていた人が話を聞いて大笑いするのもそうした感情が内にあるからです。また普段からものごとに動ぜず、怒っても仕方のないようなことには平静を保っている人は、肚はらの中でそれを処理しているのです。肚のできている人と、できていない人はそこが違います。

(参考:「致知」2014年9月号)

経営者のための営業学

幾重にかけた手間と気遣い(コクヨ)

1. 約400万冊。事務用品最大手のコクヨが、グループの「コクヨ工業滋賀」で1日に生産するノートの冊数だ。年間では約1億冊、平積みになると、その高さは富士山にほぼ並ぶ。主力の「キャンパスノート」は、1975年の生産開始から直近までの累計で、26億冊超を造り出した計算となる。誇るのは冊数の多さだけではない。開きやすさや製本の強さ。ノートの絶妙なバランスを追求するため、製本機械はメーカーから購入後、必ずカスタマイズを施す。
2. 印刷で描かれる罫線が、ページの表裏でずれていないか、30分に1度は抜き取りチェックを実施。わずかなふぞろいも見逃さない。普段、何気なく使っているノートも、幾重にもかけた手間と気遣いが裏側にある。

(参考:「週刊東洋経済」2014年6月21日号)